

会派の意見

3月定例会を振り返って

市民クラブ

どうする岡崎市政

市民クラブの代表質問で、今秋の市長選への去就を問われた岡崎市長は「後援会と相談する」とし、明言を避けました。しかし、市民の関心も高く、将来の市政への影響も大きいことから、早期の態度表明が待たれます。また、利活用方針が定まっていない「西敷地」の暫定整備の手法について、年初に議会各会派との意見交換が行われました。アスファルト舗装、土舗装、芝生敷案等の4つの暫定整備手法で、3200万円余りから6700万円余りの費用を要することが示されました。会派としては、岡崎市長を含めた次期市長の意向が反映できるよう、市長選の

結果を待つべきで、新年度当初予算化は見送るべきと提言した結果、予算化されませんでした。

日本共産党

学校給食費の保護者負担増回避、オーテピア西敷地暫定整備求める

子育て支援として給食費の保護者負担増を回避するための予算修正を提案。予算原案については、競争性が働かず財政健全化の足かせとなる特命随意契約が横行している一方で、西敷地の暫定整備が盛り込まれておらず、現状を放置する予算であり反対しました。

学校プールの在り方検討委員会条例制定議案は、「結論ありき」や「議論の非公開」ではないことを確認した上で賛成しました。国に対する意見書は、「物価高騰・コロナ禍での中小企業などへの緊急支援」「旧統一教会への解散命令請求」「同性婚の法制化」など5本を提出しました。

自由民主党・中道の会

新年度当初予算が無事に可決されました。好調な経営が続く高知競馬の利益から、畜産振興基金と中小企業・小規模企業振興基金に積み立て、活用しようとする試みや、森林環境譲与税を活用したイ

ノシシの捕獲報奨金の増額、教育面では法的根拠をもとにした、いじめ問題への対応など、この1年間の会派議員による一般質問などの政治活動が実を結んだものです。また宿泊型産後ケアの利用者負担の軽減を評価する一方、利用回数に制限される措置に対しては今後正を求めてまいります。8期32年、無遅刻無欠席で議員を全うされた福島明議員が本定例会をもって勇退となり、最後の質問戦に臨みました。ぜひご一読ください。

公明党

任期最後の議会

「令和」と共に始まったこの4年間。今議会では、勇退議員や新たな分野に挑む議員の登壇も多く、それぞれの思いを感じた議会でした。議員提案による政策を実現するには公益性にのっとった相当の執念が必要です。公明党が一貫して求めてきた被災者支援システムの利用は、被災者台帳の重要性を明確化することにより、発災時の罹災証明も同システムでスムーズに発行できることになりました。また、子育て支援や医療的ケア児の支援策も拡充されます。今後市民の皆さまのための政策実現を果たしてまいります。

新こうち未来

西敷地は市民が使いやすいように簡易な整備を

わが会派は一貫して新図書館西敷地は広場として整備し、多くの市民が多様な使用ができるようにするべきと考えている。民間提案を不採用としたことで安堵しているが、現状の砂利でなく簡易舗装を施し、利用を促進することが当面の措置ではないかと考える。

山嶽会

身近な課題を市政に反映

高橋裕忠議員が委員会審議を通じて、令和5年度予算について執行部に説明を求めるとともに、提案をいたしました。今後とも市民の皆様の身近な声に耳を傾け、市政に着実に反映させてまいります。

清和クラブ

暮らしの安心・安全の推進を

海治甲太郎議員は地域産業の担い手不足や物価高、エネルギー高騰の影響に対し一層の支援を求め、南海トラフ地震の「事前復興まちづくり計画」策定や旭駅周辺の新しい街づくりの加速化を支持した。